

令和 3 年度 長野市伝統環境保存審議会
議事録

日時：令和 3 年 12 月 6 日（月） 午後 2 時～4 時 50 分
会場：松代公民館 講義室 1

出席者

委員：9名中9名出席

文化財課：4名

都市政策課：1名

松代支所：1名

以上合計 15 名出席

内容

1 開会

2 会長・副会長選出

委員互選により会長に佐々木委員を選出

会長指名により副会長に香山委員を選任

3 審議

【事務局】

- ①事業の経過について
- ②保存計画について
- ③保存対象物の現状について
- ④行為届の提出状況について 説明

4 現地調査

5 審議

【事務局】

- ⑤事業の課題と今後の見通しについて 説明

【委員】

所有者の側からすると、背に腹にかえられないということで、昔からの建物があっても壊して分譲にするのはもっともだと思う。修繕費の5分の4は補助があるが、残りの5分の1は個人負担で、特に若い人には負担が大きい。例えば、100%補助にすれば、門を壊さずに済むのではないか。範囲は縮小しても一部でも残していかなないと、江戸時代の趣を再現するのは難しい。

【委員】

保存対象物の中には既に更地になってしまったものもあり、これまでやってきた事業の意義が見えない。行政改革の視点から見ると「この事業はやる意味があるのか、何のために税金をつぎ込んできたのか」との指摘になる。松代の住民の方々の思いと、長野市のビジョンとしてこの地域をどうしていきたいのかという方向性を決めたうえで、この事

業の在り方を議論することが必要。小手先だけ変えて制度を続けても、町並みが残せるのかというところに来ている。大きな視野で松代地区をどうしていきたいのか、方向性を決めていかなければいけない。その中で伝統的な景観を維持するための保存物をどう扱うのかという議論になってくるものと思う。

【委員】

壊されてしまったのは残念。地元の業者だけなら、もう少し考えて門・塀だけ残してもらうとかできたかもしれない。現状、松代はベッドタウン的な地域。武家屋敷は一軒 500 坪、600 坪が当たり前。中には 1000 坪も持っている方もいて、維持が大変。分譲もやむを得ないのであれば、通りから見た外観だけでも残せたらと思う。開発業者も巻き込めるようなことを考えていければいい。

【委員】

方針の再検討が必要。40 年前と事情も様子も変わってきている中で広域のエリアを守っていくのは厳しい。エリアの絞り込みが必要で、縮小する方向が良いのではないか。新規で地域に入ってきた方達も含めて、住民の話し合い、守り育てるということを語ったり広報したりしていくことが必要。地域で同じ志を認識していくことで、良い方向に行くのではないか。木曽町では地元の工務店で建設する事業のみに補助金が出ている。この区域でも、松代の工務店に限ることや、方向性の統一を共有して協力を仰いでいくこともできたら良いのではないか。業者や個人も含めて相談できる窓口を設置するとかなり違ってくるのではないか。

【委員】

何のための保存なのか、誰のための保存なのか、町づくりや地域振興という視点から、このような基本的なことをどう整理してきたのか気になる。松代はなかなか産業が育たなくて観光をターゲットとしているが、保存区域である代官町の上の方までお客さんが行けるのか、エリア的な問題もある。保存することで住民にとってのメリットがあるということ整理して説明していかないと、進まない。

【委員】

改めて現場を見て、かなり危険な状況になっていると感じた。制度としても、町並みを維持していくという点でも限界がきている。今の制度で 40 年以上動いてきたという蓄積があるので、制度自体は存続をさせていくべきだろうというのが考え。

ただ、この場所に本当に相応しい制度を考えていく必要がある。直接的にこの制度を修正するのも手であるし、この制度と被せて検討していくのもひとつ。両面から検討していただけると良い。

松代の場合は、何を残すべきか分からない状況になってきていることが一番の問題。私としては、保存区域においては、あまり観光色を打ち出すのではなく、住む人たちが快適

に暮らせる、そこに歴史や文化がきちんと反映されているということを目指すべきではないかと思っている。地元の住民の皆様を含め、何のために残していくべきか議論をしていかないと、おそらく新しい住民の方はこの制度の存在自体を知らない。何に対してお金を付けていくかということと関わるが、景観を残していくことだけにお金を付けるのは難しいのではないかな。もっと残すべきものに対して重点的にお金を付けること。活用ということにもお金を付けることも必要。今、モヤッとなっている状況を保存と活用という点で整理をしていきながら、何に対して補助していくのかという議論も必要になってくる。

【委員】

今年度の長野市の伝統環境保存事業の予算は0円。ということは、長野市の中で、この事業は効果がないし、意味がないというのが総意だと思う。この場で伝統環境を残すにはどうしたら良いか考えることは大切であるが、客観的な評価としてはあまり意味がない。

伝統環境を守るために理想的な条件を掲げて、新たに今よりも素晴らしい環境を作っていきましょう、というのはやはり現実的に無理。悩ましい問題でもあるが、今日、現場を見て改めて感じたのは、建物の色だけは統一されていて、それだけでもすばらしく、今のままでも十分意味がある。保存区域内で色だけでも守っていただいているというのは意義がある。これを緩めるとか強化するとあるが、現状維持は最低限必要なのではないかな。理想を言えば全然ダメかもしれないが、今のままでも十分意味があるので、存続していつてもらいたい。

【委員】

市の独自条例で進めてきたので様々な面で規制が緩い面もある。補助金も満額ではないので、どうしても負担が増える。かつては資金力がある人は修景をしてくれたが、代が替わり、広大な土地を維持できなくなってきた。伝統環境保存条例がなかったら、もっとひどい状態になっていたと思うので、この条例があって良かったと思っている。泉水・泉水路をどう守っていくのかなども含めて、行政がやるべきこと、地元住民がやるべきこと、業者にも協力してもらい、整理しながら進めていく必要がある。相談窓口がないと施主側としては業者に頼らざるを得ないという部分もある。様々な課題があるので、模索しながらいい方向を見つけていければ。

【委員】

松代には、武家屋敷地一筆で800坪くらいあるものが多く残っていた。他の町には残っていない。泉水（池のある庭）と泉水路（水の供給）もある程度残っているが、数としてはかつての半分くらいになっていると思う。

武家屋敷の配置としては、門から入ったところに主屋があって、南向きに庭、奥は畑があるというのが特徴。代官町にはまだ残っているが、補助金とは別に、相続税の減免にまで踏み込まないと広い武家屋敷地の相続ができず、残すことはできない。税金の面で維持のしやすさという問題の解決が必要になる。

【委員】

古い町並みを残すには地元だけではとても難しい。国の補助制度がないと保存できないのではないかなと思う。今、松代城跡整備と市街地整備が進んでいるが、そこと伝統環境保存事業関連付けて、文化庁とも連携しながら、周辺の殿町も含めて国と進められないかなと思う。

【委員】

市が大きなビジョンを提示する必要がある。どんな町にしていくのか、漠然としたイメージでもいいが、そこまで踏み込んでいく必要がある。

【委員】

保存に関しては国の制度をどう入れるかというのが問題になってくる。建物だけではなくて、地域の特徴、池庭なども含めた環境を守っていく方策がないかと事例を学んだが、国の文化的景観制度なども漠然としていて松代での適用は難しいように感じている。いずれにしても長野市の条例だけで進めていくには限界があるように見えるので、もう一步踏み込む必要があるのかなと思う。

【委員】

伝統的な建物の残り状況を考えると、かつてはこの範囲が良かったのかもしれないが、今はそうではなくなってきたのではないかな。この範囲の中にある伝統的な建物だけが補助を与えられて残されていくことに対し、やや違和感がある。その周りには何十と登録有形文化財があるわけで、そこに対してきちんと補助を出していく仕組みをセットで考えていかないと、残すべき物が残らないということになってしまう。おそらく、この範囲の中に残っている伝統的な建物だけを残していくだけでは、松代らしさは残っていない。松代全体の中で残すべきものは何だろうと考えて、適切に補助を出していくという仕組み作りが必要で、市の登録制度などが必要になってくるという気がする。

【委員】

観光面で、これまで保存してきた歴史的なものをもっと活かして町を活性化していくのであれば様々な手が打てると思うが、松代はそこモヤモヤしている気がする。守り育てるのが大事なのか、観光客を増やしたいのか、どちらの方向に行くのが良いと思うか。今は、住まいとして落ち着いて安全で安心な地区になろうという方向で開発が進んでいる。

【委員】

生活している人たちの意識と観光で開発していこうという意識の二つのバランスをどう取っていくかが今後は重要だと感じている。今日見てきた現場などは住環境を重視し

ている。住居には非常によい場所で、観光客に来られるのは困るという人たちは多いと思う。

【委員】

観光客がお金を落とす場所がない。松代以外で泊まったり食事をしたりする方が多いと思う。松代城跡の整備で、食事できる場所も整備するとか。

【委員】

この町で、観光で稼ごうという商店はなくなり、住まいとして住んでいる方がほとんど。観光にそんなに関心がないというか、観光で稼ごうという必死になる人たちが少なくなってきた。結局、それだけでは食べていけない。勤め人になってしまっている方がほとんどなので、観光には必死にはならない。

【委員】

いろいろな課題が山積している。まずは、どこを突破口にするか。長所や短所も出てくるので、整理が必要。

【委員】

これは松代の未来の将来像をどう描くかという問題。まさにまちづくり。

【委員】

これは旧松代町の問題とも言える。住む人も増えて欲しいし、店舗も増えて欲しい。

【委員】

今お客さんがきているのは真田宝物館、真田邸、文武学校であるが、周辺には店がない。商工会議所などはお店を引っ張ろうとしているが、なかなかできていない。私は周辺へ出てきてもらった方がいいと常々考えているが、それが良いのか悪いのか分からない。これは戦術部分だと思うが、本当に大きなまちづくりの戦略がないと進まないと思う。

6 閉会